

2019年4月実績概要(メモ)

(2019. 5. 23)

前年に対して、定修規模の縮小による生産の増加要因がある中、誘導品生産では強弱が有り。

1. 生産動向

イ) エチレン 516, 100トン

前月比 ▲8.2% (▲46, 300トン)

前年同月比 +6.7% (+32, 200トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲3.2%	-
定修要因等	▲5.7%	+6.6%
能力増減	-	+0.2%
稼働率変動	+0.7%	▲0.1%
生産増減率	▲8.2%	+6.7%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月95.1%→ 当月95.8% ← 前年同月95.9%
定修プラント：前月なし → 当月1社1プラント ← 前年同月2社2プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数の減少に併せて定修規模差や稼働率要因等からLD、HD、PP、EO、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの13品目がマイナス。SM、AN、SBRなどの4品目は主に定修規模差等からプラスとなった。

前年比では、定修規模差や稼働率要因等からHD、PS、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、EGなどの6品目でプラス。LD、PP、MMAモノマー、BR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの11品目はマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況(LD、HD、PP、PS)

イ) 生産

前月比では、日数の減少と定修規模差や稼働率要因があわさりLD、HD、PP、PSの4樹脂でマイナスとなった。

前年比では、LD、PPは定修規模としては縮小しているものの稼働率要因からマイナス。HD、PSは定修規模差からプラスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、LDでは加工紙分野等、HDでは射出成形分野での増加があったが、これら以外の出荷分野での減少がありマイナスとなった。PPでは主に射出成形分野の出荷増加からプラス、PSは連休前の引き合いの活発化もありプラスとなった。

前年比では、前年が定修に備えた在庫積み増しが続いていたこともあり、出荷自体がある程度抑え気味の傾向にあった。これに対して当年は定修規模が前年ほどでないこともあり、LDでは特に加工紙分野、HDでは中空成形分野等の出荷が増加しプラスとなった。PPでは射出成形分野を中心とした主要分野の出荷が大きく増加しプラス、PSは前年に出荷に落ち込みが見られたが、今年では全ての分野で出荷が増加することとなった。

ハ) 輸出

前月比では前月の輸出が期末要因等から大きく増加した影響もあり、当月はLD、HD、PPともに大幅なマイナスとなった。

前年比では、前年が国内出荷と同様に輸出も低レベルであった。これに対して当年はLD、HDはプラスとなった。PPは当月の国内出荷の増加もあり、輸出量が減少しマイナスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、PP、PSで減少、HDはやや増加した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLDは前月並み、HDは上昇、PP、PSは低下した。在庫水準としては、LD、PSはほぼ適正、HDはやや高め、PPはタイト気味となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率(単位:ヶ月)	
		3月末	4月末
LD	▲12,700	3.2	3.2
HD	+2,300	3.5	3.7
PP	▲22,500	2.9	2.5
PS	▲500	1.6	1.5

以上